

許せぬ「再開発断念」

あくまで再建の道求めて

炭労、24時間ストに突入—12日



北炭夕張新鉱の再開発をめぐる闘争方針を論議した炭労第103回緊急臨時大会。(冒頭あいさつする野呂委員長)

を追認したもので、もともと再開発の意志がなかったことが浮きぼりとなり、「山上提案」、「道の再建ボーズを示したにすぎず、その責任の重大性があらためて問題となっています。

この決定は最悪の裏切り行為であり、責任回避だと怒りの声が中央・山元に渦まいています。
また、この決定はさる五月に右岸協会が「検討」の結果として答申した「再開発は不可能」の観點

援にも限界がある。の二点をあげておきたい。

条件の獲得」という立場からも審議が求められています。

に集合交渉をはさむる社もあり、強力な統一闘争がのこされます。炭鉱と比較される鉄鋼ではすでに昨年、年間三百万円となっており、「地下労働にふさわしい労働

決定しました。

五十五万円なんとしても

炭労、期末手当闘争へ



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033~4
編集兼 緊急刊行人 杉本一男
半年間 1,200円 送料共
振替口座番号
労金大牟田
0968946-005

公判のお知らせ

9・28 坑内火災裁判公判
七月二十八日午後一時から、『
右裁判所で。 (42回)
9・28 坑内火災裁判公判
九月八日午後一時から、同右
裁判所で。 (43回)

過去 6年間の期末手当推移

年度	期別	要求額	妥結額
52年	上期	400,000円	351,500円
	下期	400,000	360,500
53年	上期	400,000	348,000
	下期	400,000	348,000
54年	上期	400,000	348,000
	下期	400,000	350,000
55年	上期	450,000	365,000
	下期	450,000	389,000
56年	上期	450,000	421,000
	下期	500,000	433,000
57年	上期	500,000	440,000
	下期	500,000	440,000(港務) 443,000(石炭)

* 58年上期は港務所がすでに440,000円で妥結。

昭和58年5月 負傷者数調べ

鉱所	重傷	軽傷	微傷	保安部	計
四山	4	0	2	9	15
三川	4	0	0	6	10
有明	4	0	0	2	6
計	12	0	2	17	31

※ 「保安部」は保安部預けのこと。

政府決定に抗議する

採算に合わないとするのは再開
然であつて、発断念を前提とした不当なもの
であり、保安の確保が困難とい
う理由も根拠が薄い。
当面、残存する鉱区を開発し
ながら、将来に向けて全面開発
を検討し実施することこそ、政
府の役割である。

行動方針討議定期総会と改選の日程

電力料金値下げなどを含めて不一致が目立った。産業工ゴの論議も相変わらずで、これでは矛盾の克服どころか、お真実の暗と言われてもやむを得まい。

▼：北炭夕張新鉱は昭和五十年六月、次々と炭鉱が閉山となる中で開鉱した国内炭振興の象徴だった。開発と経営危機のたびに回顧の国家資金を引き出したのは、北炭のドン秋原とかく話題が多くつたが、最後の政治決着は「再開発断念」。断じて政府の責任は免れないはず。だがストリーを書いたのか、『夕張の悲歌』。